



NPO法人 災害救助犬ネットワーク  
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

# 災害救助犬・認定審査規定

2021年10月改訂

NPO法人 災害救助犬ネットワーク  
認定審査部

## ■ 広報犬審査規定

広報犬は、行政が行う防災訓練や各種イベントにおける災害救助犬のデモンストレーションで活動するためのペアである。

そこで公に披露するのに必要な最低限の能力を確認するための認定審査を行う。

一方、捜索犬は実働における作業能力を必要とするため広報犬とは区別する。依って出陳者(指導手)は活動する指導手の目的によって選択できる。

審査の開始は、審査員の指示により(以下「指示により」)、犬を脚側停座させ、ゼッケン番号・犬名・指導手名を申告する。申告後の作業は全て審査員の指示に従う。

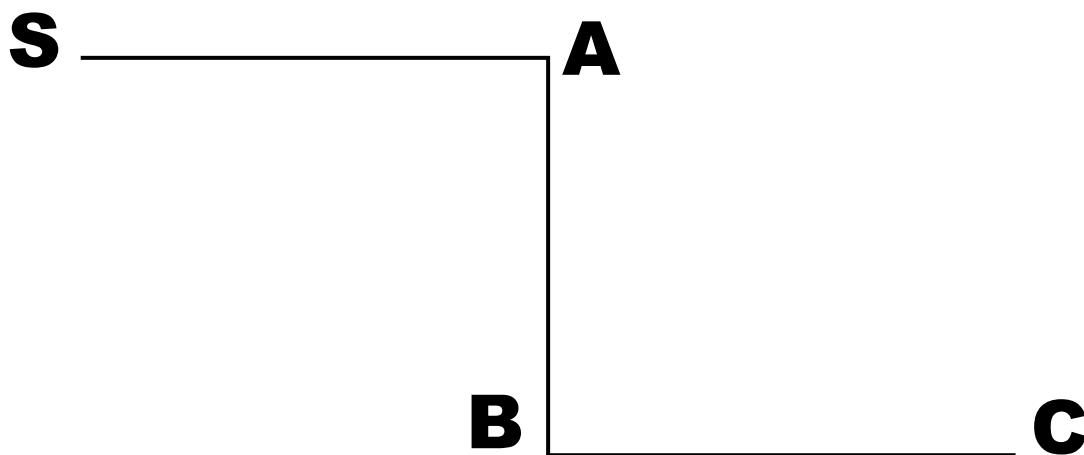
指示は声符、視符とも認める。

作業と作業の合間ではご褒美の使用も認める。

これらによって確実な服従作業を行わせることが目的である。

## ■ 審査コース

※各距離は10m



### 1. 脚側行進(紐付き、紐なし)

犬をSの位置に脚側停座させ、審査員の指示により紐付き「常歩」脚側行進でA、B地点を通過してC地点に向かい、C地点で折り返し、止まることなく「速歩」脚側行進でB、A地点を通過しS地点に戻り、折り返して脚側停座する。

次に、上記の紐付き作業と同様の作業を紐なしで行い脚側行進作業が終了となる。



NPO法人災害救助犬ネットワーク  
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

## 2. 行進中の作業(紐なし)

審査員の指示でS地点よりA地点に脚側行進で向かい中間地点で「停座」をさせ、指導手は止まることなくA地点に向かい犬と対面する。審査員の指示で犬のもとに戻り、審査員の指示でB地点に脚側行進で向かいAとB地点の中間地点で「立止」をさせ、指導手は止まることなくB地点に向かい犬と対面する。審査員の指示で犬のもとに戻り、審査員の指示で脚側停座させる。審査員の指示で脚側行進でC地点に向かい、B、C地点の中間地点で「伏臥」させ、指導手は止まることなくC地点に向かい犬と対面する。審査員の指示で犬のもとに戻り、審査員の指示で脚側停座させる。審査員の指示で脚側行進でC地点に向かい折り返して脚側停座をさせて行進中作業を終了する。

## 3. 遠隔作業、及び招呼

犬をC地点で脚側停座させ、審査員の指示で指導手はB地点に向かい犬と対面する。審査員の指示により犬に「伏臥」をさせる、次に審査員の指示により「立止」をさせる。次に審査員の指示により停座させ、審査員の指示により「招呼」して脚側停座させて終了となる。

## 4. 休止

犬を所定の位置に脚側停座させ、審査員の指示により、指導手は犬を伏臥させ審査員の指示により指導手は犬に「待て」を命じ、犬から2歩離れた場所で休止させ指導手は横向きで立つ。その際、犬を見てもよい。紐なし紐ありは選択できる。

休止時間は、概ねペアを組んだ一方の作業の開始から終了までとする。

---

## ■広報犬捜索、BOX規定

審査員の指示により、犬を脚側停座させゼッケン番号、犬名、指導手名を申告する。

両課目では、ヘルパーにご褒美を与えてもらうことができるが、使用のご褒美は、審査前に申告し渡しておく。

### 1. 捜索作業

限られたエリアの範囲でヘルパー1名を速やかに捜索、告知させる。

捜索環境は山野、ガレキ、建物などがあるが、当日決定する。

捜索時間は審査員の判断とする。

この作業は、すべて首輪をはずし紐なしで行う。

### 2. BOX 捜索

指導手と犬は、ヘルパーがBOXに入る姿が見えない場所に待機し、審査員の指示により作業開始ポイントへ移動する。3つのBOXの中からヘルパーの隠れている1つのBOXで速やかに告知させ、指導手はその旨を審査員に告げる。

この作業は、全て紐付きで行なわれ、首輪及び、付随する鈴やカウベル等やハーネスの使用は自己判断で認められるが首輪を使用する際は、首輪が締まらないように装着しなければならない。また、伸縮リード及びロングリードの使用は認められない。



## ■ 搜索犬審査規定

搜索犬の審査は災害現場や実働しているイメージで行うようになっており、申告後の作業の開始からの連絡、報告、指示は審査員ではなく本部とやり取りする。各審査員はそのやり取りも含め評価する。

搜索作業は、雑木林・山野・倒壊家屋・瓦礫、土砂現場等々などを想定し、その都度定める。地域性を重視し、搜索現場は審査員が決定し作業時間、注意点も含め発表する。各審査項目は予め公開する。

搜索犬は、人命救助活動を現場で行うためのものであるが、広報活動にも参加することもあるので「広報犬」の審査で行われる作業はできるであろうことを審査対象としている。

1. 服従作業自体は行わないが、搜索時間内の作業はすべて服従性に関して審査対象。
2. 服従性の確認のため作業中に審査員の指示がある場合にはその指示に従う。
3. ヘルパー数は、設定会場により限定しないが、搜索時間は 20～30 分以内とする。
4. 審査員の指示により、犬を脚側停座させ、審査員にゼッケン番号、犬名、指導手名、発見時の告知方法(バークアラート等)を申告する。
5. 設定会場により異なるが搜索作業の開始の為の出発地点は、指導手が決定し申告後は速やかに、出発点に紐付きで移動して搜索準備姿勢をとらせる。
6. 搜索作業は、審査員の指示により開始するが時間のカウントは指導手が審査員にトランシーバーにて作業開始の一報を入れた時点からスタートする。
7. 搜索作業を開始する際は、原則として犬の紐、首輪は外さなければならないが、搜索現場によっては必要である事を指導手が判断した上で紐付き作業を行う事は、その限りではない。また、申告時から首輪は締まらないように装着しておかななければならない。
8. 犬が告知したと判断した場合、一報を入れ、その状況を報告し本部指示に従う。
9. 搜索作業中の犬への報酬としてのボールやトリーツ、水分の使用は認める。
10. 立ち入り禁止区域には犬も指導手も入ることはできない。
11. 搜索作業の残り時間及び作業終了等の伝達はトランシーバーにて行う。
12. 搜索中、審査員が著しい作業意識の低下やコントロール不可と判断した場合は時間内でも審査は中止される。



NPO法人災害救助犬ネットワーク  
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

13. 審査員は3名とし、犬、指導手を評価「服従性」「自主性」「指導手の戦略・ハンドリング能力」「告知動作」する審査員2名、実働視点の評価(状況判断、行動、報告、安全管理、時間管理、装備等)する審査員1名から構成され、それぞれの評価点数を合計し、数値化によって合否を決定する。
14. 各審査員の持ち分比率は、認定審査部40%、訓練育成部40%、出動部20%の割合で各点数を合計し、70点以上で合格とする。  
ただし、審査員1名が50点未満の場合は70点以上でも不合格とする。
15. 特に出動部の審査は、今までになかった視点でもあり、現場では必須の項目である。  
習得に必要な訓練会(連携訓練、実動訓練等)で経験を積むことが望ましい。
16. 審査の合否は、審査終了後に総評と共に5段階評価で指導手に講評される。  
合格評価は、V(96.5~)、SG(95.5~90)、G(89.5~80)、B(79.5~70)とし、不合格は、評価M(~69.5)とされる。

---

### 【禁止及び注意事項】

審査員は、指導手が以下の行為を行ったと認められた場合は、作業を中断もしくは中止させ失格とすることができる。

1. 体罰
  2. 犬の健康面に異常があると認められた場合
  3. 伸縮リードの使用
  4. 首輪によるショックを入れる行為と申告の際の首輪を絞まる状態での装着
  5. 作業中に逸走等の著しくコントロールが不能と判断された場合
  6. 人や犬に対しての適性にそぐわない行動や反応が見られると判断された場合
  7. その他審査員が必要と判断すること。
-